

English translations of technical comments in the notification of rejection issued on Japanese Patent Application No. H11-269582 from the Japanese Patent Office.

Comments:

Claims 9 and 10 does not describe how the computer specifically uses the hardware resources in each step; hence, they cannot be admitted as the invention regarding the technical thought using the natural law. Therefore, the matters described in claims 9 and 10 do not match the definition of the invention as described in the first paragraph of article 29-1 in the Japanese Patent Law; hence, no examination is performed on patent requirements such as the novelty and inventiveness with respect to the matters described in the aforementioned claims.

Comments:

- (1) Claims 5 to 8 fail to teach what is done in each step in the performance data editing method; hence, it is unclear how to attach execution icons, a and how to selectively perform the display and non-display, for example.
- (2) Programs are each defined by instruction strings suited to the processing in a computer, which is controlled to perform specific procedures, whereas it is unclear how the program is effected and how each step is performed in claims 9 and 10.

Comments:

As to claims 1 and 5 (cited references 1 to 3)

The cited reference 1 discloses the apparatus in which musical symbols (corresponding to execution icons representing execution-related data) are attached so as to allow editing of performance data.

It is well known that the layer is constituted in response to the type of the event icon being attached (see cited reference 2, for example); and it is well known from the teaching of the cited reference 3 that the display/non-display modes are changed over with respect to the specific

row and column.

As described above, it can be admitted that the skilled person in the art can easily make the invention defined in claim 1.

Claims 2 and 6 (cited references 1 to 3)

It is the known technology that the display size is adequately changed; hence, it can be realized that the contracted display can be actualized with respect to the designated layer.

Claims 3 and 7 (cited references 1 to 4)

It is the known technology that the display position is changed (see the description regarding "change of column order") from the teaching of the cited reference 4 and the like.

List of cited references:

1. Japanese Patent Application Publication No. H04-371989.
2. Japanese Patent Application Publication No. H07-302080.
3. Japanese Patent Application Publication No. H10-187849.
4. CAKEWALK Pro Audio & Professional Version 6.0, reference manual, Japan, Roland Corporation, pp. 34-35, November 14, 1997.

整理番号 C28118

発送 213666 1/
発送日 平成16年 6月15日

拒絶理由通知書

特許出願の番号 平成11年 特許願 第269582号
起案日 平成16年 6月 8日
特許庁審査官 小宮 慎司 9567 5C00
特許出願人代理人 岡部 恵行 様
適用条文 第29条柱書、第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に記載されたものは、下記の点で特許法第29条第1項柱書に規定する要件を満たしていないから、特許を受けることができない。

記

請求項9及び10には、各ステップがコンピュータのハードウェア資源を具体的にどのように用いるのかが記載されていないので、自然法則を利用した技術的思想の創作とは認められない。したがって、請求項9及び10に記載されたものは特許法第29条第1項柱書でいう発明に該当しないことが明らかであるから、当該請求項に記載のものについては新規性、進歩性等の特許要件についての審査を行っていない。

(特許・実用新案審査基準第VII部第1章の「2.2 「発明」であること」を参照されたい。)

2. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

(1) 請求項5乃至8では、各ステップが何において行われる演奏データ編集方法であるのかが記載されていないため、例えば奏法アイコンを貼り付けたり、表示及び非表示を選択的に実行したりすることをどのように行えばよいのかが不明である。

(2) プログラムはコンピュータによる処理に適した命令列であり、コンピュー

整理番号 C28118

発明番号 213666 2/
発送日 平成16年 6月15日

タに特定の手順を実行させるものであるところ、請求項9及び10では、プログラムが何に働きかけ、各ステップを何が実行するのかが記載されていないため、不明りょうである。

また、末尾の「記録媒体」とは、どのようなものまでを含みうるのかが不明りょうである。

(特許・実用新案審査基準第VII部第1章の「1. 1 特許請求の範囲の記載要件」を参照されたい。)

3. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

・請求項1及び5について(引用例1乃至3)

引用例1には、画面上に音楽記号(本願の「奏法対応データを表す奏法アイコン」に相当)を貼りつけて、演奏データを編集する装置が記載されている。

一方、貼りつけられるイベントアイコンの種類に応じてレイヤーを構成することは周知であり(例えば引用例2等を参照)、また、特定の行や列の表示/非表示を切り換えることも、引用例3等により周知である。

よって以上のとおりであるから、本願の請求項1に係る発明は、当業者であれば容易に想到し得たものと認められる。

・請求項2及び6について(引用例1乃至3)

表示されるサイズを適宜変更できるようにすることは周知技術であるから、指示したレイヤを縮小表示させることは、適宜なし得たことである。

・請求項3及び7について(引用例1乃至4)

表示位置の変更をすることは、引用例4等により周知技術である(「コラムの順番の変更」の項を参照)。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

整理番号 C28118

発番 213666 3/E
発日 平成16年 6月15日

1. 特開平04-371989号公報
2. 特開平07-302080号公報
3. 特開平10-187849号公報
4. CAKEWALK Pro Audio & PROFESSIONAL VERSION6.0 リファレンス・マニュアル
、日本、ローランド株式会社、1997年11月14日、pp. 34-35

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野	IPC第7版	G10H	1/00	-	7/12
		G10G	1/00	-	7/02
		G06F	3/00		

・先行技術文献 特開平10-091384

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第四部 映像機器 小宮 慎司
TEL. 03 (3581) 1101 内線3539
FAX. 03 (3501) 0715